

タカラヅカ レビュー 90TH

1927〜2017

ラインダンスや大階段が登場する華やかなステージ…
いまや宝塚歌劇の代名詞である「レビュー」。
2017年は、宝塚歌劇が日本で初めてレビューを上演してから90周年。
この機会に今の宝塚歌劇を形づくった、レビューの歴史を改めてご紹介します。

2017年、宝塚歌劇はレビュー90周年を迎えます。

「レビュー」とは…

1年間に起きた話題の出来事などを歌とダンスで綴った舞台のことで、19世紀末から20世紀にかけて欧米で流行しました。タカラヅカでは、豪華なセットや羽根飾りの衣装が登場する、歌とダンスをメインとした華やかなショー作品のことをいいます。芝居やミュージカルと共に2本立てで上演される場面がほとんどで、フィナーレでは羽根を背負ったトップスターが登場してラストを飾る宝塚歌劇ならではの醍醐味が楽しめます。

ラインダンスが初登場

24人の踊り子が、走る電車を表現した「汽車の踊り」が大評判に。ダンサーが1列に並び、巧みに足を揃えて踊り、観客を魅了。



日本初のレビューを上演

『モン・パリ(吾が巴里よ)』

欧米での演劇視察から帰ってきた演出家・岸田辰彌による、神戸からパリまでの旅行記を歌とダンスで綴ったレビュー作品。幕なし全16場のスピーディーな場面転換、シャンソンなど、昭和初期の日本文化にヨーロッパの息吹を持ち込んだ今までにない画期的な舞台に観客は大興奮。製作費はなんと、これまでの公演約1年分が投入されました。主題歌も「うるわしの思い出、モン・パリ、わがパリ…」と日本中のあちこちで歌われ、大ヒットに。



16段の大階段

大階段もこの公演で登場。当時、舞台での大階段の使用は、とても斬新でした。

「日本物」のレビューも!

日本舞踊で構成する「日本物」と呼ばれる作品もあります。能や歌舞伎など日本の伝統芸能を取り入れつつも、日舞をオーケストラの演奏による洋楽で踊ることが特徴的です。

新・東京宝塚劇場の完成を祝う祝祭舞

『いすみれ花咲く』

新・東京宝塚劇場の完成を記念し、21世紀の幕開けに上演された豪華な舞台。出演者全員による美しい祝いの舞が繰り広げられ、未来への輝かしい希望を感じさせる公演となりました。



宝塚歌劇100周年を飾る記念公演を上演

『宝塚をどり』 『TAKARAZUKA 花詩集100!!』

1933年に上演された『花詩集』を現代のアレンジで甦らせ、タカラヅカの更なる発展を表した作品。宝塚歌劇100周年を記念して、華やかで迫力のある100人のラインダンスも披露されました。

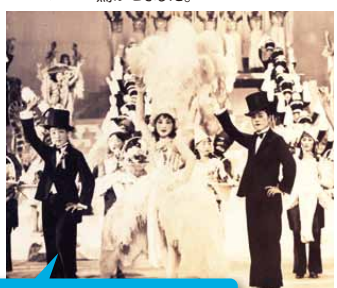


1927年 1930年 1931年 1933年 1950年 1960年 1993年 2001年 2014年 2017年

肌色メイクに変化 斬新な羽根飾りの 衣装も話題に

『バリゼット』

これまで白塗りだった化粧が、自然な肌の美しさを表現する肌色化粧へと変化。また、大きなダチョウの羽根を帽子に仕立て、観客を驚かせました。



再現された「バリゼット」の羽根飾り

現代のレビューにつながる 集大成的な作品が登場

『花詩集』

「レビューの王様」と称される演出家・白井鐵造の傑作レビュー。スマイルやバラなど花をテーマにした作品で、宝塚歌劇で初めて立ち見客が出るほどの大盛況となりました。



初めて銀橋を使用

『ローズ・パリ』

銀橋とは、宝塚歌劇の舞台の特徴のひとつ。オーケストラボックスと客席の間にある通路のようなエプロンステージのことで、この作品で初めて登場しました。

「シャンシャン」の名称に

フィナーレのバレーの場面で、出演者全員が手に持つ飾り道具「シャンシャン」。1950年の「アラビアン・ナイト」から、「シャンシャン」と呼ばれるようになりました。
※写真はイメージです。

総観客動員数80万人突破! 芸術祭賞を受賞

『華麗なる千拍子』

題名の通り幕開きからフィナーレまで華麗な歌と踊りが連続するテンポに富んだ素晴らしい作品で、文部省の芸術祭賞を受賞。通算7ヶ月半にも及ぶロングラン作品となり、レビューに新風を巻き起こしました。



世界的デザイナー・ 高田賢三氏が衣装をデザイン 『宝寿頌』『PARFUM DE PARIS』

新・宝塚大劇場のこけら落とし公演。衣装デザインにKENZOブランドのデザイナー・高田賢三氏を迎え、今までにない色彩と造形が注目を集めました。



有名デザイナーや振付家を起用

国際的に活躍するデザイナーや振付家、音楽家を起用した作品も多数あり、常に新しい作品作りに取り組んでいます。2006年の「NEVER SAY GOODBYE」では、ブロードウェイを代表する作曲家のフランク・ワイルドホーン氏を迎えて話題に。

「PARFUM DE PARIS」で使用された衣装。

そして2017年… レビュー90周年 注目作品が続々

レビューの歴史を受け継ぎ、
2017年も心躍る素敵な舞台をお届けします。

花組公演

『Santé!!』

「Santé!!」とは、フランス語で「乾杯」の意味。ワインを楽しむように、宝塚の舞台に酔いしれて欲しいという思いがこもった、芳醇な香りと大人の雰囲気をつづレビュー。芝居は「邪馬台国の風」を上演します。



月組公演

『All for One』

世界の古典・デュマの『三銃士』を新発想で描くミュージカル。フランスを舞台に、ダルタニアンとの愛と冒険、三銃士との友情を描く。バレエの基礎を築いたルイ14世の時代ならではの華麗なバレエシーンにも期待。



宙組公演

『クラシカル ビジュー』

人の心を掴み、時には人を惑わせる華麗な宝石「ビジュー」。色とりどりの煌めきを放つ宙組メンバーを、様々な宝石になぞらえた場面で構成するレビューです。ミュージカルは「神々の土地」をお送りします。



星組公演

『Bouquet de TAKARAZUKA』

タカラヅカレビューの伝統を紡ぐ作品。世界巡りの形式で展開し、花の様に多彩に輝く紅ゆずるを中心とした星組の魅力が満載。「ベルリン、わが愛」と共に上演。

